新本っ子

学校通信　No. ４３
令和４年１月発行
新本小学校
令和４年１月１８日

【学校教育目標：豊かな人間性をもち，実践力のある子どもを育成する】

新 自分で考える子　本 本気で取り組む子　義 きまりを守る子　民 みんな仲良く元気な子

～資源回収　ご協力ありがとうございました！！～

１６日(日)の第３回資源回収に際しまして，ＰＴＡ評議員の皆様には寒い中，早朝よりご参加いただき，誠にありがとうございました。お陰様で無事，実施することができました。

また，保護者，地域の皆様におかれましては，雑誌，古新聞，空き缶などの資源，運搬等のご協力，誠にありがとうございました。

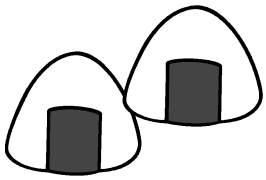
皆様方のこうした温かいご支援によって支えられ，得られた貴重な収益金であることを心に留め，児童の教育活動，ＰＴＡ活動の充実のため，大切に使わせていただきます。

毎日の給食に感謝【1月17日　児童朝礼】

１月の品格目標は礼儀です。その一つとして，お世話になっている人や物に感謝の気持ちを表すことはとても大切なことです。

今日は，感謝の気持ちを込め，毎日お世話になり，私たちの健康や成長を支えてくれている給食についてのお話をします。

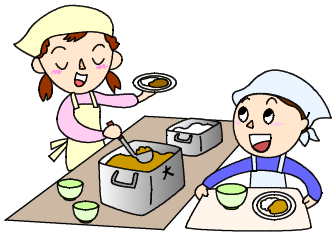
学校給食の始まりは，今から約１３０年前の明治２２年。山形県の鶴岡町の私立忠愛（しりつちゅうあい）小学校で始まりました，家庭が貧しくてお弁当を持って来られない子どもたちのために，学校を建てたお坊



さんがお昼に，おにぎりや焼き魚，漬け物などを無償で出したのが始まりとされています。

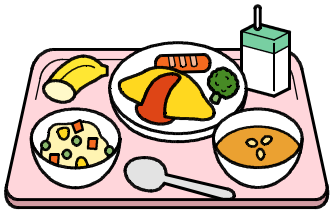
その後，給食は全国に広がっていきましたが，戦争のため次第に食べるものがなくなると中止されました。やがて戦争は終わりましたが，食べるものはなく，全国の子どもたちはおなかをすかせていたそうです。

そうした中，昭和２１年１２月２４日にアメリカの支援団体などから，給食用に脱脂粉乳や小麦粉，缶詰などの食料が東京の小学校に贈られ，学校給食の再開へとつながっていきました。

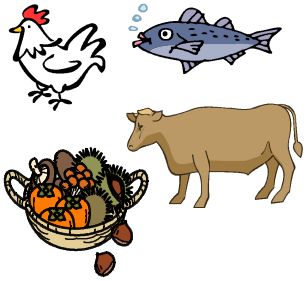


この１２月２４日を記念して「学校給食感謝の日」と定めましたが冬休みに入ってしまうため，その１か月後の１月２４日からの１週間を「全国学校給食週間」とすることに決まりました。この週間の頃には新本小は勿論，全国の小・中学校で給食の意義や役割について考える学習や行事が行われています。

さて，給食が再開された頃の給食は，脱脂粉乳やコッペパンにおかずなどでした。当時の給食を，今皆さんが食べたら「おいしくない」と感じるかもしれませんが，当時は食べ物があるだけで幸せでした。



今の給食は様々なおかずに，ご飯や麺も登場し，時々デザートもついてきます。本当においしいですね。毎日おいしくいただいている給食は，給食調理場の先生を始め，たくさんの方々に支えられています。



また，私たちが食べている食べ物は，もとをたどれば全て生き物です。肉や魚，お米や野菜など，動物や植物の命をいただいて私たちが生かされています。食べ物になった命のおかげで私たちが生かされていると考えると食べ物のを無駄にはできませんね。

そうしたことを考え，給食に携わっているすべての方々や食べ物に感謝して，大切に食べていきたいと思います。